

氏名	齋 藤 哲 郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 901 号
学位授与の日付	昭和52年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Ultrastructural studies on the cercarial integument of <i>Clonorchis sinensis</i> (Cobbold, 1875) Looss 1907 (肝吸虫セルカリアの体表微細構造について)
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 金政泰弘 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

(1) 体 部

体表は他種セルカリアと同様に角皮層で被われ、この角皮層は底部より細管が深部にのびて柔組織の中に位置している上皮細胞と連絡している。すなわち角皮層は1個の大きなシンシチュウムを形成している。角皮層内には核は無く、ミトコンドリアや円盤状の顆粒が多数存在している。又角皮外表面には多数の小棘や感覚毛が生えている。特に口吸盤の付近には小棘の密生が認められる。深部の上皮細胞内には核の他ミトコンドリア、ゴルジ体、分泌顆粒等が存在している。角皮下には基底膜を隔て、薄い角皮下層があり更にその下方に筋層が位置している。これらの筋細胞は総て平滑筋に属している。

(2) 尾 部

体部と同様に角皮層に被われているが、体部のものより薄く、しかも下方に連絡する細管は認められない。角皮外表面にも感覚毛はあるが小棘は生えていない。角皮内の顆粒も非常に少数である。このセルカリアには背腹両面に顕著な翼がついており、この基質は角皮層の連続したものである。尾の付着部では更に角皮層が皺状になっているのが多数認められる。角皮層下には平滑筋よりなる輪走筋があり、更にその内側には良く発達した縦走筋が走っている。このものはA、Iバンド、Zディスク等が明瞭な横紋筋よりなっている。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は肝吸虫セルカリアの超微構造、特に体表のそれを詳細に研究したものであるが、従来同様の電顕的検索については報告がなく、しかも本寄生虫が1877年当岡山県で、はじめて発見されたものである点、重要且有意義な業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。